

# AMAKURU Rwanda

-Ukwazi Kwa Karindwi-



青年海外協力隊 2017 年度 4 次隊  
ルワンダ派遣 (2018/3~)  
コミュニティ開発 (水の防衛隊)  
野田 恵莉



Mwiriwe! (こんにちは!) 2018年3月末より東アフリカの赤道直下に位置するルワンダ共和国に派遣されている野田恵莉(のだえり)です。

東部県ンゴマ郡ムラマセクターに赴任して2か月半が経ち、水道なしの生活にもだいぶ慣れてきました。さて今月も、私の活動、任地の暮らしについて紹介します。

## ----- 持続的な井戸の維持管理をサポートしよう -----

私の任地には、住民にとって毎日の生活に欠かせない「井戸」が多く点在しています。しかし、井戸が壊れたとき、修理する人やお金がないと誰も手を付けず修理されないまま放置されてしまいます。そんな困った! の状況にも住民で対応できるように…。今回は、水委員会と隊員で、修理が必要になった際、井戸の部品購入や修理工にかかる費用を支払えるよう、各家庭からの集金について話し合いをしました。



📷：水委員会のメンバーと会議のようす。

具体的には、各家庭からお金を集める必要性や、修理部品の値段の確認、いつだれがどのように集金するかなどを話したのですが、メンバーから、

「この村にある2つの井戸や湧水、どれと限らず、この村の水を使う世帯から3か月に一度 500RWF ずつ集めよう」という意見が出たことに、感動! さっそく、午後開催された住民集会でメンバーが説明し、住民から賛同を得ることができました。

私たち隊員が住民の背中を押すことだけでなく、住民の力を信じることも大切だなあと強く感じた1日でした。

翌週、住民集会に行って集金について確認すると、「半年に1度500RWFにしたい」、「ほかの村人も水を汲みに来ているから徴収したい」との声が挙がり、次回の住民集会にてほかの村の住民へ話を持ち掛けることに。



📷：同僚や水委員会の会長と一緒に、集金の目的などを説明しているようす。

話し合いの結果、賛同してもらうことができ、次回から集金を開始することになったのですが…。後日、同僚や水委員会のメンバーに集金状況を確認すると、「知らないよ」、「うまくいっていない…」との声。集金先の範囲が広がった分、だれがどのように責任をもって集めるのか決められないまま時間が過ぎてしまいました。

進んだり、長らく止まったり…思うように進まないもどかしさでいっぱい！同僚の協力も不可欠！しかし、毎日多忙な同僚の助けを待っていても、何も動きません。これから、住民主体で井戸の維持管理ができていいるモデルとなる水委員会を探し、住民同士でノウハウを学び合う場作りをサポートしていきたいと考えています。

#### ----- 乳しぼり見学@ご近所さんの家 -----

最近は、ご近所さんとごはんを食べたり、いただきものをしたり、お返しをしたりすることが楽しみの一つです。

ある日、いつも卵を買うご近所さんの家に行くと、「今晚、乳しぼりをするからおいで」とお誘いが。乳しぼりは朝晩絞るのが日課だそうです。

まず、牛がおとなしくなるように餌を与えます。牛の足をロープで固定し、手を洗ったら、乳しぼり開始！お父さんは慣れた手つきで、リズムよく絞っていきます。



📷：乳しぼりのようす。お父さんの手にかかれば、牛もおとなしい。

いつもは携帯電話の小さな灯りを頼りに乳しぼりをしているので、私は電気を照らす役。子どもたちはじ〜っと父の姿を見て学んでいます。

話していると、牛にまつわる言葉が多いことにびっくり！乳しぼりをするを「gukama」、乳しぼりが終わるを「guhumuza」といいます。



📷：牛乳を受け取るようす。両手を添え「zirakamwa; 牛が私たちに牛乳を与えてくれた」と言います。

私の任地では、家で牛を飼っているのが当たり前！住民にとって牛は財産です。牛乳が得られ、子孫を増やし続ける乳牛が、肉牛より大切にされるそうです。この村で生活をして、少しずつルワンダ人と牛の深い関係が見えてきました。



📷：牛を誘導する子ども。

乳しぼりが終わり、家に帰ろうとしたところ、「牛乳を持っていきなよ。私たちのご近所さんだから」とうれしいおすそわけが！

「数回沸騰させ、しっかりと加熱をしたあとに飲むんだよ」と教えてもらい、家でさっそく実践！

お店で売られているロングライフ牛乳とはまた違う、甘くて濃いおいしい牛乳と、ご近所さんのやさしさにほっこりしたすてきな夜となりました。

では、来月もお楽しみに。Murabeho~!(またね！)